

町長就任あいさつ

小野町長 大和田 昭



めに、決意を新たにして全力を傾注し取り組んでまいります。

国に目を向けますと、地域主権改革や社会保障と税の一体改革などの影響が不透明さを増しており、地方自治体を取り巻く環境は極めて厳しい状況が続くことが予想されます。

また町におきましては、東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う放射性物質からの風評被害の払しょく、除染につきましましては、極めて困難な課題であり、閉塞感を解消することが喫緊の使命であると考えております。

私は、このようなさまざまな課題に対し真摯に向き合い、町職員と一丸となって、最善の策を講じてまいります。

私の政治信条は「町民が主役のまちづくり」であります。

そのためには、次のような施策を展開してまいります。

第一には「除染と震災復興の推進」です。現在、夏井地区の仮置き場につきましては、整備に向け進捗しているところではありますが、ほかの地区におきましても、関係者の皆さまとの丁寧な調整を行い、早期設置を確保いたします。また町産品の安全を強力にアピールするほか、放射能に関する有識者の登用など、風評被害・健康不安からいち早く脱却いたします。

次に「農業・商業・工業の調和のとれた活力あるまちづくり」であります。企業誘致は、町の活性化を図る上で、最重要課題でもありますので、私自身が積極的にトップセールスを行い、議会や関係機関と連携しながら、早期立地を目指すとともに、若者の雇用の

場を確保いたします。

また農業施策におきましては、耕作放棄地の解消や、農地の基盤整備を行うなど、農業後継者が経営しやすい環境整備を積極的に推進するほか、6次化産業を推進してまいります。

「定住人口の増加対策」では、企業誘致と連動しながら、若者が住みやすい町営住宅の整備を行うことにより、人口流出を最小限に抑え、原発避難者に対しては、災害復興住宅等の支援を積極的に行います。

「教育の充実」に関しては、幼保一体化施設の整備を行い、就学前教育を充実させます。また町独自の土曜授業に取り組みなど、確かな学力の定着と学校教育活動充実を目指します。さらには、地域との連携による地元高校の充実を促進いたします。

3月17日の小野町長選挙におきまして、皆さまのご支援をいただき、町長として町政運営の重責を担わせていただくことになりました。

微力ではありますが、小野

町のこれからのまちづくりを考えると、改めて責任の重さに身が引き締まる思いであります。12年間の町議会議員、8年間の町議会議長の経験を生かし、町民福祉の向上のため